

35.C14560



PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)
: Examiner: Not Yet Assigned
TAKEHIRO YOSHIDA ET AL.)
: Group Art Unit: 2731
Application No.: 09/597,150)
: Filed: June 20, 2000)
: For: COMMUNICATION APPARATUS) Date: October 19, 2000

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicants hereby claim priority under the
International Convention and all rights to which they are
entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following
Japanese Priority Applications:

- 1) 11-176118 filed June 22, 1999.
- 2) 11-217787 filed July 30, 1999.

A certified copy of each of the priority documents
is enclosed.

RECEIVED
NOV - 3 2000
OCT 24 2000
TECH CENTER 2700

RECEIVED

Applicants' undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,

L. P. D'Amico
Attorney for Applicants

Registration No. 29,296

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

NY_MAIN 119599 v 1



日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

09/597150

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

OCT 20 2000 99年 7月30日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第217787号

出 願 人

Applicant (s):

キヤノン株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

TECH CENTER 2700

OCT 24 2000

RECEIVED

TECH CENTER 2700

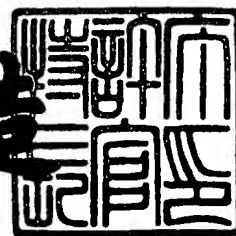
NOV -3 2000

RECEIVED

2000年 7月14日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3054949

【書類名】 特許願

【整理番号】 4040048

【提出日】 平成11年 7月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 ファクシミリ装置、ファクシミリ伝送制御方法および記憶媒体

【請求項の数】 7

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

【氏名】 吉田 武弘

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【代理人】

【識別番号】 100081880

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡部 敏彦

【電話番号】 03(3580)8464

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007065

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703713

特平 1 1 - 2 1 7 7 8 7

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファクシミリ装置、ファクシミリ伝送制御方法および記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うファクシミリ装置において、

前記同報送信により送られた情報を受信する受信手段と、

該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する選択手段と、

前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する転送手段とを備え、

前記転送手段は、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】 前記受信した情報の有無を表示する表示手段と、

前記受信した情報を記憶する記憶手段と、

該記憶された情報を印刷する印刷手段とを備え、

前記同報送信により送られた情報を受信した場合、該受信した時刻を前記記憶手段に記憶するとともに、前記表示手段は前記受信した情報が有る旨を表示し、

前記印刷手段は、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を強制的に印刷することを特徴とする請求項 1 記載のファクシミリ装置。

【請求項 3】 前記同報送信を開始する開始手段と、

前記次の宛先に関する情報を登録する登録手段とを備えたことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載のファクシミリ装置。

【請求項 4】 前記受信した情報の転送が正常に終了した場合、該転送した情報を前記記憶手段から消去する消去手段を備えたことを特徴とする請求項 2 記載のファクシミリ装置。

【請求項 5】 前記印刷手段は、前記受信した情報を強制的に印刷する場合、前記同報送信により送られた情報を受信した旨、および該受信した情報を前記

次の宛先に転送した旨を、併せて印刷することを特徴とする請求項 2 乃至請求項 4 いずれか記載のファクシミリ装置。

【請求項 6】 受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うファクシミリ伝送制御方法において、

前記同報送信により送られた情報を受信する工程と、

該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する工程と、

前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する一方、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送する工程とを有することを特徴とするファクシミリ伝送制御方法。

【請求項 7】 ファクシミリ装置を制御するコンピュータによって実行され、受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うプログラムが格納された記憶媒体において、

前記プログラムは、

前記同報送信により送られた情報を受信する手順と、

該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する手順と、

前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する一方、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送する手順とを含むことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、同報送信可能なファクシミリ装置、ファクシミリ伝送制御方法および記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、同報送信可能なファクシミリ装置は、1つの情報を複数（例えば、10ヶ所）の宛先に送信する場合、各々の宛先に発呼した後、画信号を送信する動作を10回繰り返していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来例のように、1つの情報を複数の宛先に送信する場合、その通信費は同報送信を行うファクシミリ装置のユーザが負担する必要がある、通信費の負担に偏りが生じていた。

【0004】

また、このような同報送信では、同報送信を行うファクシミリ装置から一方的に通信するだけであり、送信した情報を受信したユーザが確実に見ているか否かが明らかでなかった。

【0005】

これに対し、1つの情報を複数の宛先に送信する際、例えば、ファクシミリ装置（FAX）AからFAXBへ、FAXBからFAXCへ、FAXCからFAXDへ、FAXDからFAXEへ、FAXEからFAXAへとリング型に送信する、いわゆるリング型同報送信を行うファクシミリ装置の場合、各ファクシミリ装置のユーザは、例えば、手動操作で次の宛先へのリング型同報送信を指定することにより、リング型同報送信のグループ内の各ユーザが確実に受信した情報を見ることを確認でき、このようなファクシミリ装置は便利である。

【0006】

しかしながら、リング型同報送信のグループのメンバが長期間留守であると、リング型同報送信が途中で途切れてしまうという問題があった。

【0007】

そこで、本発明は、通信費の負担を一律にすることができ、同報送信のグループのユーザが受信した情報を見ているか否かを確認できるとともに、グループのユーザが長期間留守であっても次の宛先に転送することができるファクシミリ装置、ファクシミリ伝送制御方法および記憶媒体を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の請求項 1 に記載のファクシミリ装置は、受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うファクシミリ装置において、前記同報送信により送られた情報を受信する受信手段と、該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する選択手段と、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する転送手段とを備え、前記転送手段は、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送することを特徴とする。

【0009】

請求項 2 に記載のファクシミリ装置は、請求項 1 に係るファクシミリ装置において、前記受信した情報の有無を表示する表示手段と、前記受信した情報を記憶する記憶手段と、該記憶された情報を印刷する印刷手段とを備え、前記同報送信により送られた情報を受信した場合、該受信した時刻を前記記憶手段に記憶するとともに、前記表示手段は前記受信した情報が有る旨を表示し、前記印刷手段は、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を強制的に印刷することを特徴とする。

【0010】

請求項 3 に記載のファクシミリ装置は、請求項 1 または請求項 2 に係るファクシミリ装置において、前記同報送信を開始する開始手段と、前記次の宛先に関する情報を登録する登録手段とを備えたことを特徴とする。

【0011】

請求項 4 に記載のファクシミリ装置は、請求項 2 に係るファクシミリ装置において、前記受信した情報の転送が正常に終了した場合、該転送した情報を前記記憶手段から消去する消去手段を備えたことを特徴とする。

【0012】

請求項 5 に記載のファクシミリ装置では、請求項 2 乃至請求項 4 いずれかに係るファクシミリ装置において、前記印刷手段は、前記受信した情報を強制的に印刷する場合、前記同報送信により送られた情報を受信した旨、および該受信した

情報を前記次の宛先に転送した旨を、併せて印刷することを特徴とする。

【0013】

請求項6に記載のファクシミリ伝送制御方法は、受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うファクシミリ伝送制御方法において、前記同報送信により送られた情報を受信する工程と、該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する工程と、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する一方、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送する工程とを有することを特徴とする。

【0014】

請求項7に記載の記憶媒体は、ファクシミリ装置を制御するコンピュータによって実行され、受信した情報を次の宛先に転送することでリング型同報送信を行うプログラムが格納された記憶媒体において、前記プログラムは、前記同報送信により送られた情報を受信する手順と、該受信した情報を前記次の宛先に転送するか否かをユーザの指示により選択する手順と、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択された場合、該次の宛先に前記受信した情報を転送する一方、所定期間、前記ユーザの指示により前記次の宛先への転送が選択されなかった場合、前記受信した情報を前記次の宛先に強制的に転送する手順とを含むことを特徴とする。

【0015】

【発明の実施の形態】

本発明のファクシミリ装置、ファクシミリ伝送制御方法および記憶媒体の実施の形態について説明する。図1は実施の形態におけるファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。図において、2はNCU（網制御装置）であり、電話網をデータ通信等に使用するために、その回線の端手に接続し、電話交換網の接続制御を行ったり、データ通信路への切換えを行ったり、ループの保持を行う。また、NCU2はバス26からの制御により電話回線2aを電話機側に接続（CMLオフ）したり、電話回線2aをファクシミリ装置側に接続（CMLオン）する

ものである。尚、通常状態では、電話回線 2 a は電話機側に接続されている。

【0016】

4 は電話機である。6 はハイブリッド回路であり、送信系の信号と受信系の信号とを分離し、加算回路 1 2 からの送信信号を NCU 2 経由で電話回線 2 a に送出し、相手側からの信号を NCU 2 経由で受取り、信号線 6 a 経由で変復調器 8 に送るものである。

【0017】

8 は変復調器であり、ITU-T 勧告、V. 8、V. 21、V. 27 t e r、V. 29、V. 17、V. 34 に基づいた変調および復調を行う変復調器であり、バス 2 6 の制御により各伝送モードが指定される。変復調器 8 はバス 2 6 からの送信信号を入力し、変調データを信号線 8 a に出力し、信号線 6 a に出力されている受信信号を入力して復調データをバス 2 6 に出力する。

【0018】

1 0 は発呼回路であり、バス 2 6 からの信号により電話番号情報を入力し、信号線 1 0 a に DTMF の選択信号を出力する。1 2 は加算回路であり、信号線 8 a の情報と信号線 1 0 a の情報を入力し、加算した結果を信号線 1 2 a に出力する。1 4 は読取回路であり、読取りデータをバス 2 6 に出力する。

【0019】

1 6 は記録回路であり、バス 2 6 に出力されている情報を順次 1 ライン毎に記録する。1 8 はメモリ（回路）であり、ワーク用のメモリ（RAM）として使用したり、読取りデータの生情報あるいは符号化した情報を格納したり、受信情報あるいは復号化した情報などをバス 2 6 を介して格納するために使用する。メモリ 1 8 には、リング型同報送信ナンバに対応する、ニックネーム、サブアドレス信号、次宛先の電話番号を登録するメモリが設けられており、リング型同報受信が行われた時、受信が行われた年月日、時刻、分を記憶する。

【0020】

2 0 は操作部である。操作部 2 0 には、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルテンキー、スタートキー、セットキー、ストップキー、メモリ 1 8 への登録キー、リング型同報送信スタート選択キー、リング型同報受信の転送選択キー、リング

型同報受信のプリント選択キー、その他のファンクションキーが設けられており、押下されたキー情報はバス 2 6 に出力される。また、操作部 2 0 には、表示部が設けられており、バス 2 6 を介して入力した情報を表示する。

【 0 0 2 1 】

2 2 は CPU (中央処理装置) であり、ファクシミリ装置全体の制御およびファクシミリ伝送制御手順を実行する。これらの制御プログラムは ROM 2 4 に格納されている。2 6 はバスである。

【 0 0 2 2 】

上記構成を有するファクシミリ装置は、CPU 2 2 が ROM 2 4 に格納されたファクシミリ伝送制御プログラムを実行することにより、リング型同報送信ナンバに対応する、ニックネーム、サブアドレス信号、次宛先の電話番号を登録する機能、リング型同報送信の開始を選択する機能、リング型同報受信の転送を選択する機能、リング型同報受信のプリントを選択する機能、リング型同報受信情報の有無を表示する機能を実現し、リング型同報送信を行うことが可能である。

【 0 0 2 3 】

そして、リング型同報受信が実行されると、その時刻を記憶し、リング型同報受信有りを表示し、ユーザからのリング型同報受信の転送の選択により次宛先への転送を実行する一方、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信の情報を強制的にプリントアウトし、次宛先へのリング型同報転送を実行する。

【 0 0 2 4 】

また、リング型同報受信の転送が正常に終了した時点で、今、転送を終了したリング型同報受信情報をメモリから消去する。そして、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信情報を強制的にプリントアウトし、次宛先へのリング型同報転送を実行する際、リング型同報受信情報であるプリント情報に次宛先へ転送した旨を記載する。

【 0 0 2 5 】

図 2、図 3、図 4、図 5、図 6、図 7 および図 8 はファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。この処理プログラムは、前述したように R O

M24に格納されており、CPU22によって実行される。

【0026】

処理を開始すると（ステップS0）、まず、バス26を介してメモリ18をイニシャライズする（ステップS2）。また、バス26を介して操作部20の表示部をクリアする（ステップS4）。さらに、バス26を介してNCU2のCMLをオフにする（ステップS6）。

【0027】

そして、バス26を介して操作部20の情報を入力し、メモリ18への登録が選択されたか否かを判別し（ステップS8）、メモリ18への登録が選択された場合、バス26を介してメモリ18にリング型同報送信ナンバに対応する、ニックネーム、サブアドレス信号、次宛先の電話番号として、例えば、リング型同報送信ナンバ01に対応する、幼稚園回覧（ニックネーム）、1234（サブアドレス信号）、03-3111-1234（次宛先の電話番号）への転送を登録する（ステップS10）。一方、ステップS8でメモリ18への登録が選択されていない場合、ステップS12の処理に進む。

【0028】

バス26を介して操作部20の情報を入力し、リング型同報送信のスタートが選択されたか否かを判別し（ステップS12）、リング型同報送信のスタートが選択された場合、リング型同報送信を行うニックネーム、例えば、幼稚園回覧を入力し（ステップS14）。バス26を介してNCU2のCMLをオンにする（ステップS16）。

【0029】

そして、バス26を介して発呼回路10を使用し、電話番号「03-3111-1234」に発呼し（ステップS18）、前手順を行う（ステップS20）。この前手順では、サブアドレス信号として「1234」を送信する。さらに、画信号の読取および送信を行い（ステップS22）、後手順を行う（ステップS24）。この後、ステップS6の処理に戻る。

【0030】

一方、ステップS12でリング型同報送信のスタートが選択されない場合、バ

ス 26 を介して操作部 20 の情報を入力し、リング型同報受信のプリントが選択されたか否かを判別する（ステップ S 26）。プリントが選択されると、選択されたニックネームに対応するリング型同報受信情報をプリントする（ステップ S 28）。この後、ステップ S 6 の処理に戻る。一方、プリントが選択されない場合、ステップ S 30 の処理に進む。

【0031】

ステップ S 30 では、バス 26 を介して操作部 20 の情報を入力し、リング型同報受信情報の転送が選択されたか否かを判別する。同報受信情報の転送が選択されない場合、ステップ S 52 の処理に進む。一方、同報受信情報の転送が選択された場合、リング型同報受信情報の中から転送するニックネーム、例えば幼稚園回覧を入力する（ステップ S 32）。

【0032】

そして、バス 26 を介して NCU 2 の CML をオンにし（ステップ S 34）、さらにバス 26 を介して発呼回路 10 を使用し、電話番号「03-3111-1234」に発呼する（ステップ S 36）。前手順を行う（ステップ S 38）。この前手順では、サブアドレス信号として「1234」を送信する。さらに、幼稚園回覧として、リング型同報受信（メモリ受信）している情報を送信し（ステップ S 40）、後手順を行う（ステップ S 42）。この後、バス 26 を介して NCU 2 の CML をオフにする（ステップ S 44）。

【0033】

通信エラーがあったか否かを判別し（ステップ S 46）、通信エラーがなかった場合、今、転送を行ったリング型同報受信に関する情報をメモリから全て消去する（ステップ S 48）。一方、通信エラーがあった場合、バス 26 を介して操作部 20 の表示部に「リング型同報受信の転送にてエラーがあった旨」を表示する（ステップ S 50）。この表示は所定のキー操作で消すことが可能である。この後、ステップ S 6 の処理に戻る。

【0034】

ステップ S 52 では、リング型同報受信情報の中で受信後、24 時間経過した情報があるか否かを判別する。24 時間経過した情報がある場合、例えば、幼稚園

園回覧の1つのリング型同報受信情報 α が受信後に24時間経過している場合（ステップS54）、バス26を介してNCU2のCMLをオンにする（ステップS56）。さらに、バス26を介して発呼回路10を使用し、電話番号「03-3111-1234」に発呼し（ステップS58）、前手順を行う（ステップS60）。この前手順では、サブアドレス信号として「1234」を送信する。そして、受信後、24時間経過したリング型同報受信（メモリ受信）している情報 α の送信を行う（ステップS62）。後手順を行い（ステップS64）、バス26を介してNCU2のCMLをオフにする（ステップS66）。

【0035】

さらに、通信エラーがあったか否かを判別し（ステップS68）、通信エラーがあった場合、ステップS50の処理に戻る。

【0036】

一方、通信エラーがない場合、今、転送したリング型同報受信情報をプリントし、かつ「リング型同報受信後、24時間経過したので、次宛先へこの情報を送信しました」という情報を1ページ目のプリントに付加する（ステップS70）。この後、ステップS48の処理に戻る。

【0037】

一方、ステップS52で受信後に24時間経過した情報がない場合、受信が選択されたか否かを判別し（ステップS72）、受信が選択されていない場合、その他の処理を行い（ステップS74）、ステップS6の処理に戻る。一方、受信が選択されている場合、バス26を介してNCU2のCMLをオンにし（ステップS76）、前手順を行う（ステップS78）。この前手順では、サブアドレス信号の受信機能ありを通知する。

【0038】

そして、サブアドレス信号を受信したか否かを判別し（ステップS80）、サブアドレス信号を受信していない場合、画信号の受信および記録を行い（ステップS82）、後手順を行う（ステップS84）。一方、サブアドレス信号を受信した場合、サブアドレス信号が「1234」であるか否かを判別する（ステップS86）。サブアドレス信号が「1234」でない場合、受信したサブアドレス

信号に基づいた通信制御を実行する（ステップ S 8 8）。この後、ステップ S 6 の処理に戻る。

【 0 0 3 9 】

一方、サブアドレス信号が「 1 2 3 4 」である場合、画信号をニックネーム（幼稚園回覧）に対応させてメモリ受信する（ステップ S 9 0）。後手順を行い（ステップ S 9 2）、バス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオフにする（ステップ S 9 4）。今、受信したリング型同報受信に対応させて、受信終了年月日、時刻分をメモリ 1 8 に記憶し（ステップ S 9 6）、ステップ S 6 の処理に戻る。

【 0 0 4 0 】

このように、本実施形態のファクシミリ装置では、ユーザによる同報受信情報の転送の選択により次の宛先への転送を実行する際、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信情報を強制的にプリントアウトし、次の宛先へのリング型同報送信を実行することができる。

【 0 0 4 1 】

また、リング型同報受信の転送が正常に終了した時点で、今、転送を終了したリング型同報受信情報をメモリから消去することができる。

【 0 0 4 2 】

さらに、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信情報を強制的にプリントアウトし、次の宛先へのリング型同報送信を実行する際、プリント情報にリング型同報受信情報であり、次の宛先に転送した旨を記載することができる。

【 0 0 4 3 】

尚、リング型同報送信を行う場合、最後に受信したファクシミリ装置が最初に送信を行ったファクシミリ装置に対して確認情報を送信するようにしてもよいし、確認情報を省略してもよい。

【 0 0 4 4 】

また、リング型同報送信を行うグループ内で使用される機器はファクシミリ機能を有するものであればよく、専用のファクシミリ装置に限らず、パーソナルコンピュータでファクシミリ機能を実現したものでよい。

【 0 0 4 5 】

さらに、本発明はファクシミリ装置にプログラムを供給することによって達成される場合にも適用できることはいうまでもない。この場合、本発明を達成するためのソフトウェアによって表されるプログラムを格納した記憶媒体を装置に読み出すことによってその装置が本発明の効果を享受することが可能となる。

【 0 0 4 6 】

図 9 は記憶媒体としての ROM 2 4 のメモリマップを示す図である。ROM 2 4 には、図 2、図 3、図 4、図 5、図 6、図 7 および図 8 のフローチャートに示すファクシミリ伝送制御処理プログラムモジュールなどが格納されている。このようなプログラムモジュールを供給する記憶媒体としては、ROM に限らず、例えばフロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、不揮発性のメモリカードなどを用いることができる。

【 0 0 4 7 】

【発明の効果】

本発明によれば、リング型同報送信の受信は自動で行い、次の宛先への転送はユーザ（オペレータ）の選択で手動で行うので、リング型同報送信を行うことにより、グループ内のユーザが全てこの受信情報を見ていることを確認でき、さらに、通信費の負担も一律になった上、グループが長期間留守にしている場合、次の宛先への転送が可能で、かつ長期間留守にしたユーザもファクシミリ受信情報を見て、この情報がリング型同報受信情報であることを確認でき、使い勝手を向上できる。

【 0 0 4 8 】

このように、ユーザによる同報受信情報の転送の選択により次の宛先への転送を実行する際、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信情報を強制的にプリントアウトし、次の宛先へのリング型同報送信を実行することができる。

【 0 0 4 9 】

また、リング型同報受信の転送が正常に終了した時点で、今、転送を終了したリング型同報受信情報をメモリから消去することができる。

【0050】

さらに、リング型同報受信の転送が所定時間経過しても選択されない場合、そのリング型同報受信情報を強制的にプリントアウトし、次の宛先へのリング型同報送信を実行する際、プリント情報にリング型同報受信情報であり、次の宛先に転送した旨を記載することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

実施の形態におけるファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【図 2】

ファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 3】

図 2 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 4】

図 3 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 5】

図 4 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 6】

図 5 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 7】

図 6 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 8】

図 7 につづくファクシミリ伝送制御処理手順を示すフローチャートである。

【図 9】

記憶媒体としての ROM 24 のメモリマップを示す図である。

【符号の説明】

2 NCU（網制御装置）

4 電話機

10 発呼回路

16 記録回路

1 8 メモリ

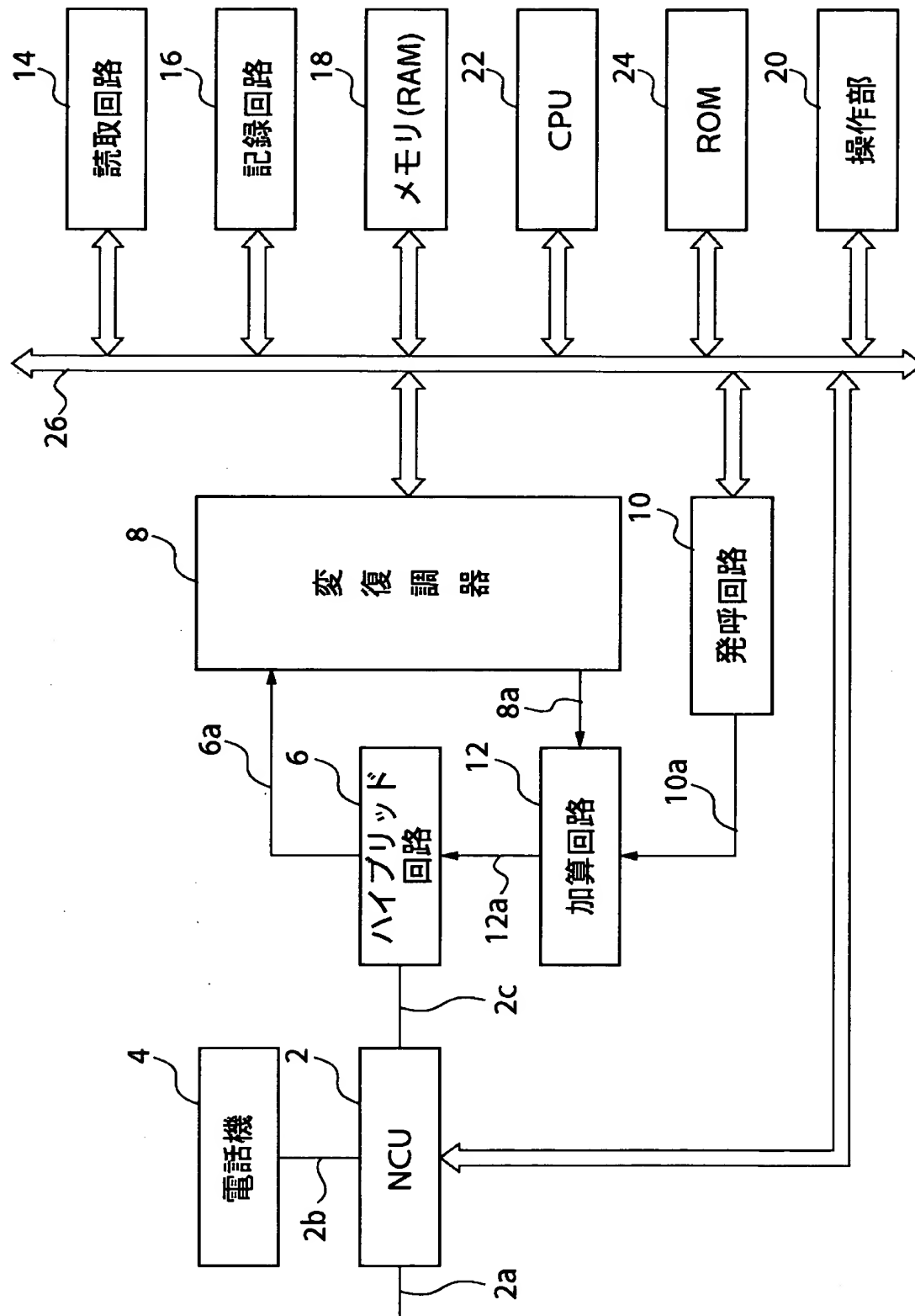
2 0 操作部

2 2 C P U

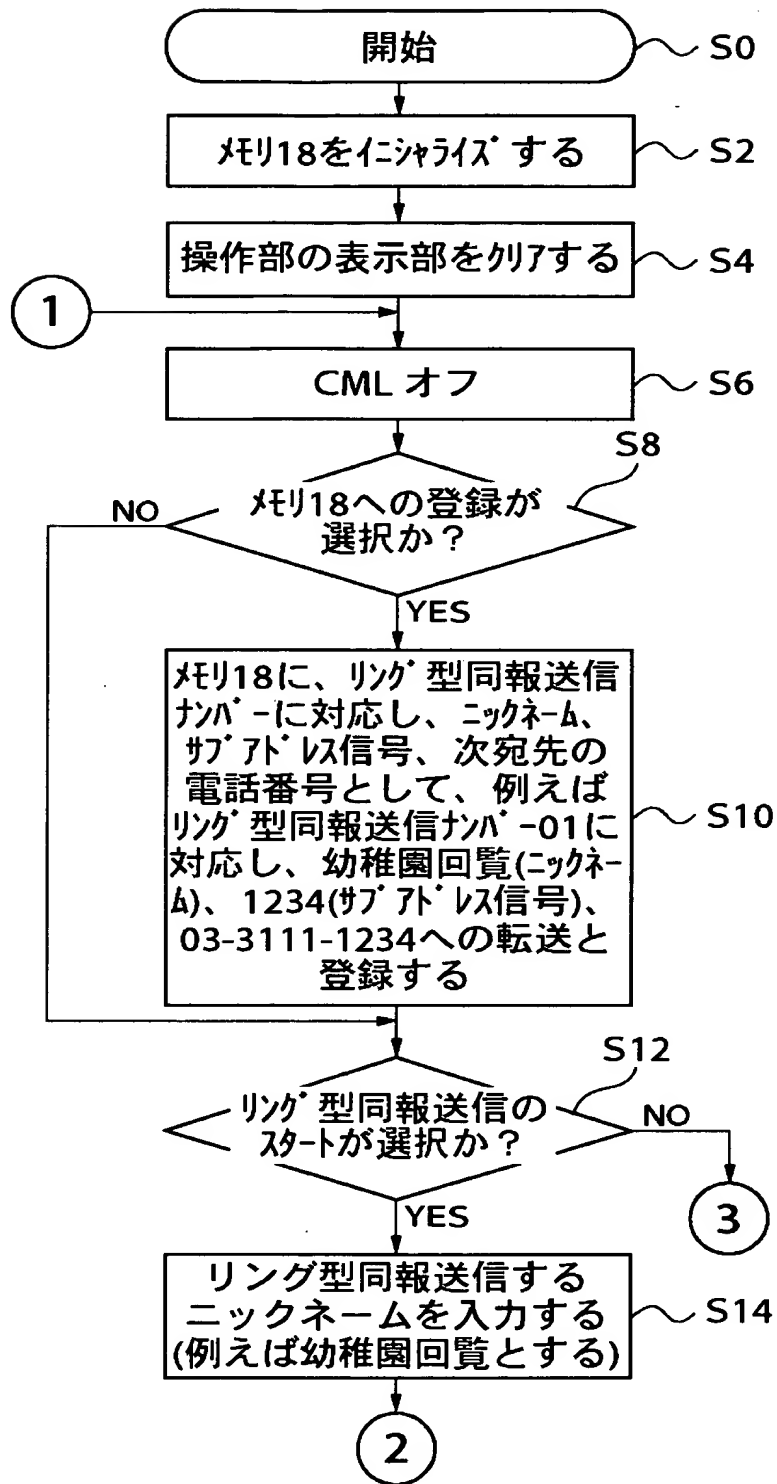
2 4 R O M

【書類名】 図面

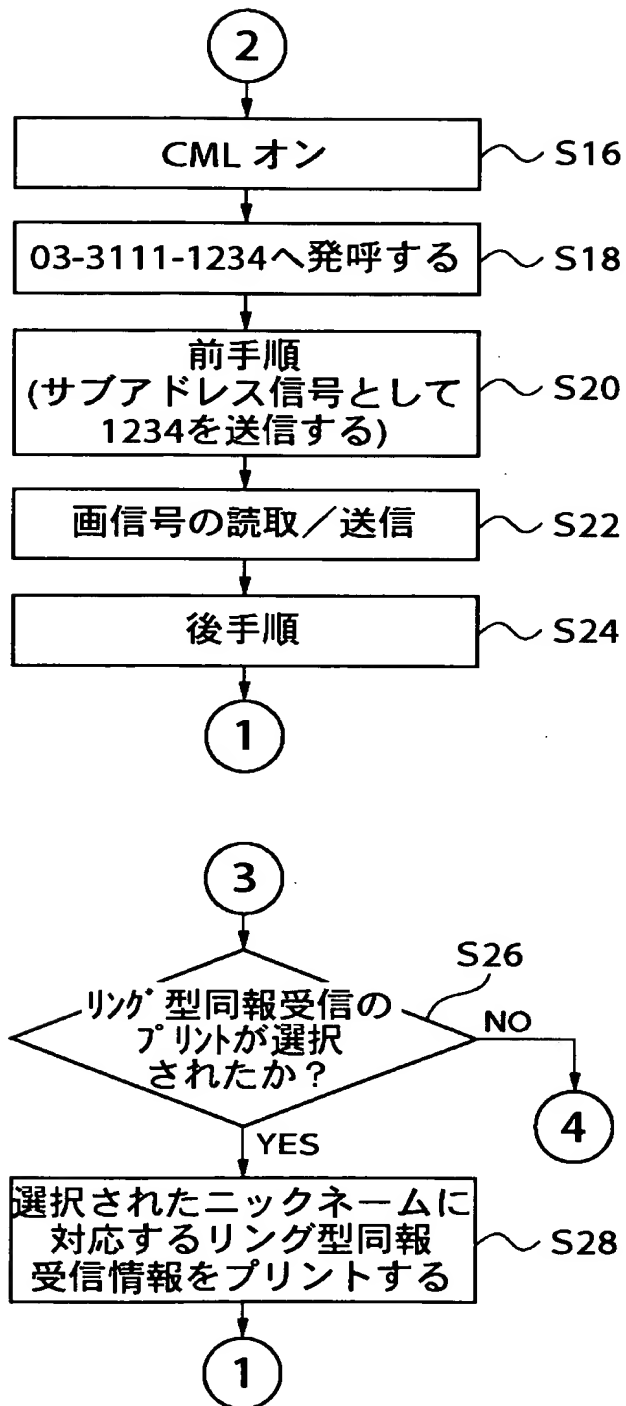
【図 1】



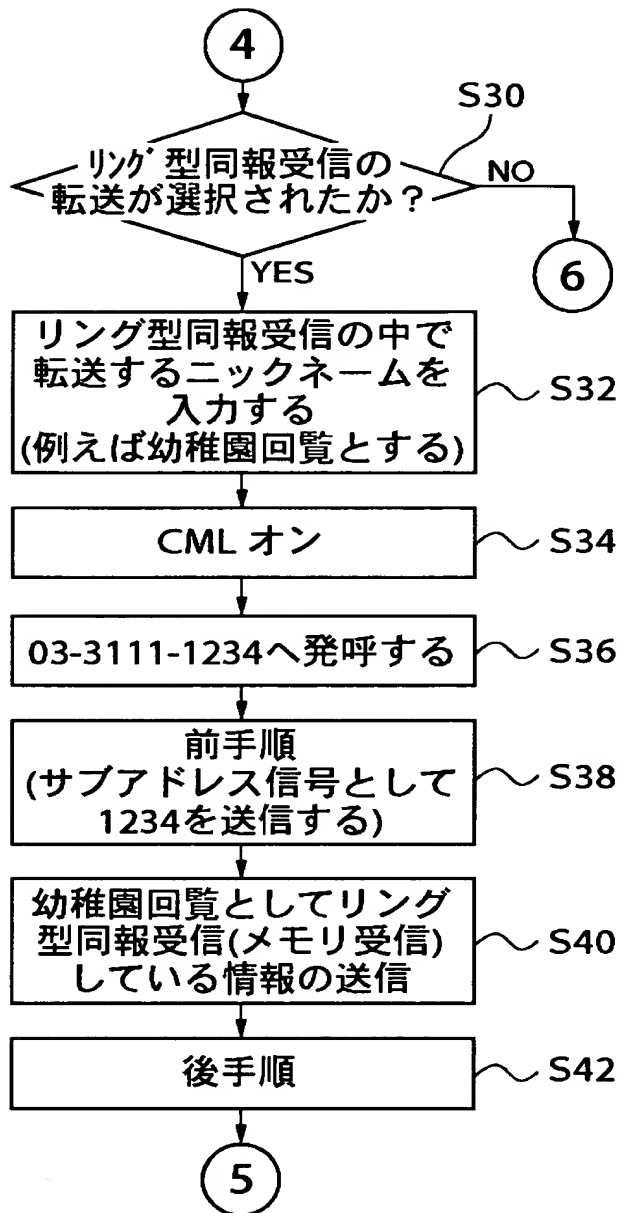
【図 2】



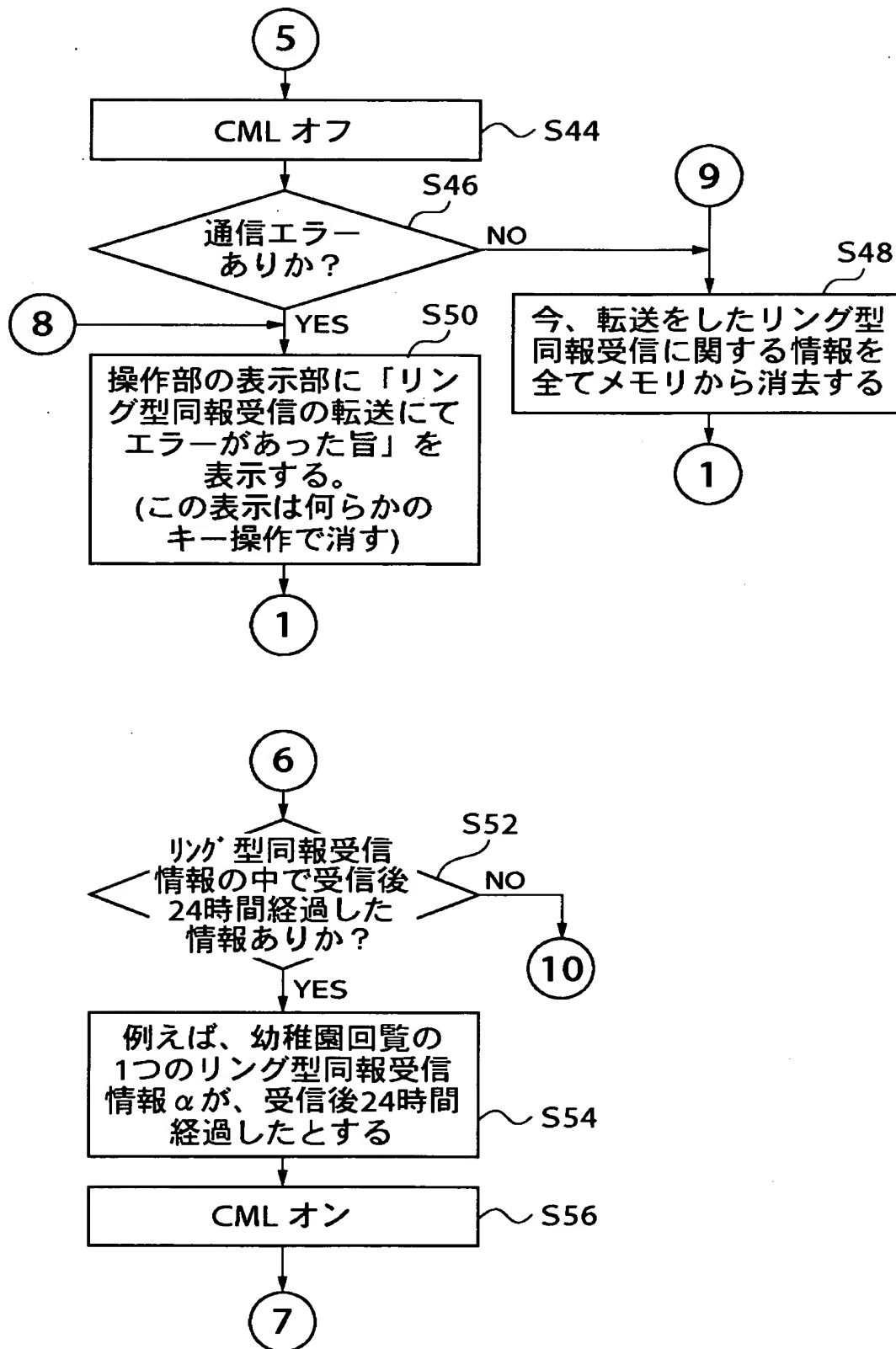
【図 3】



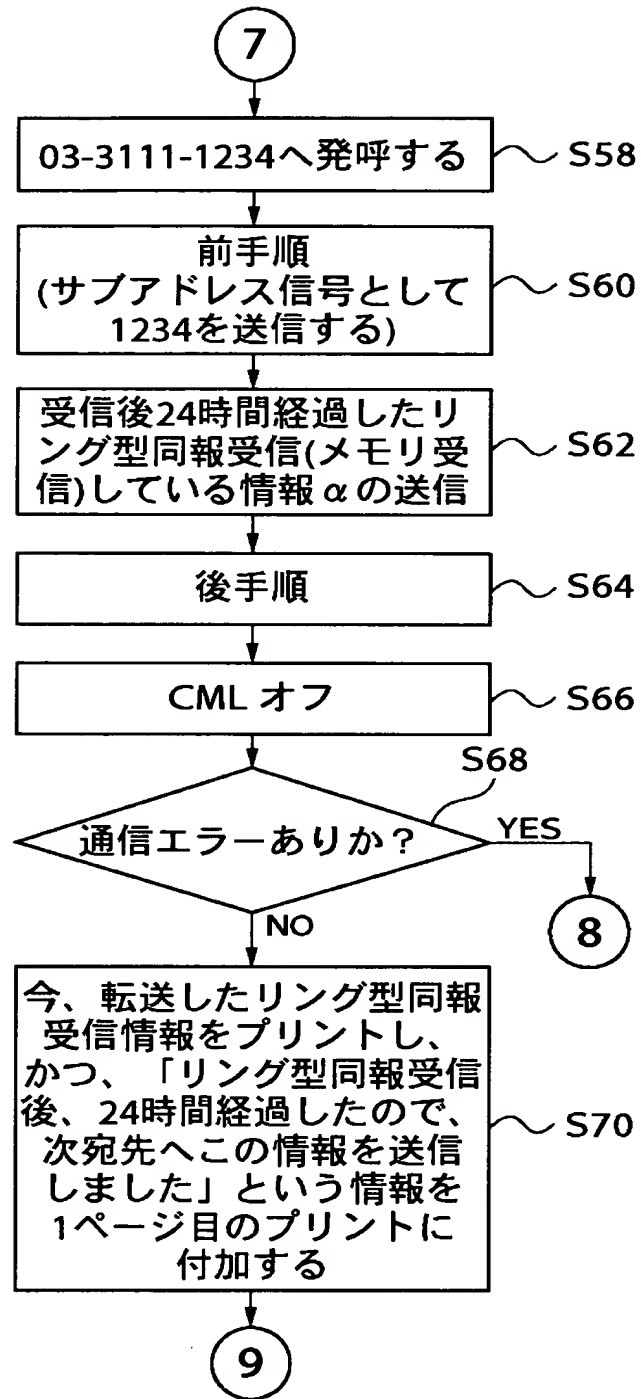
【図 4】



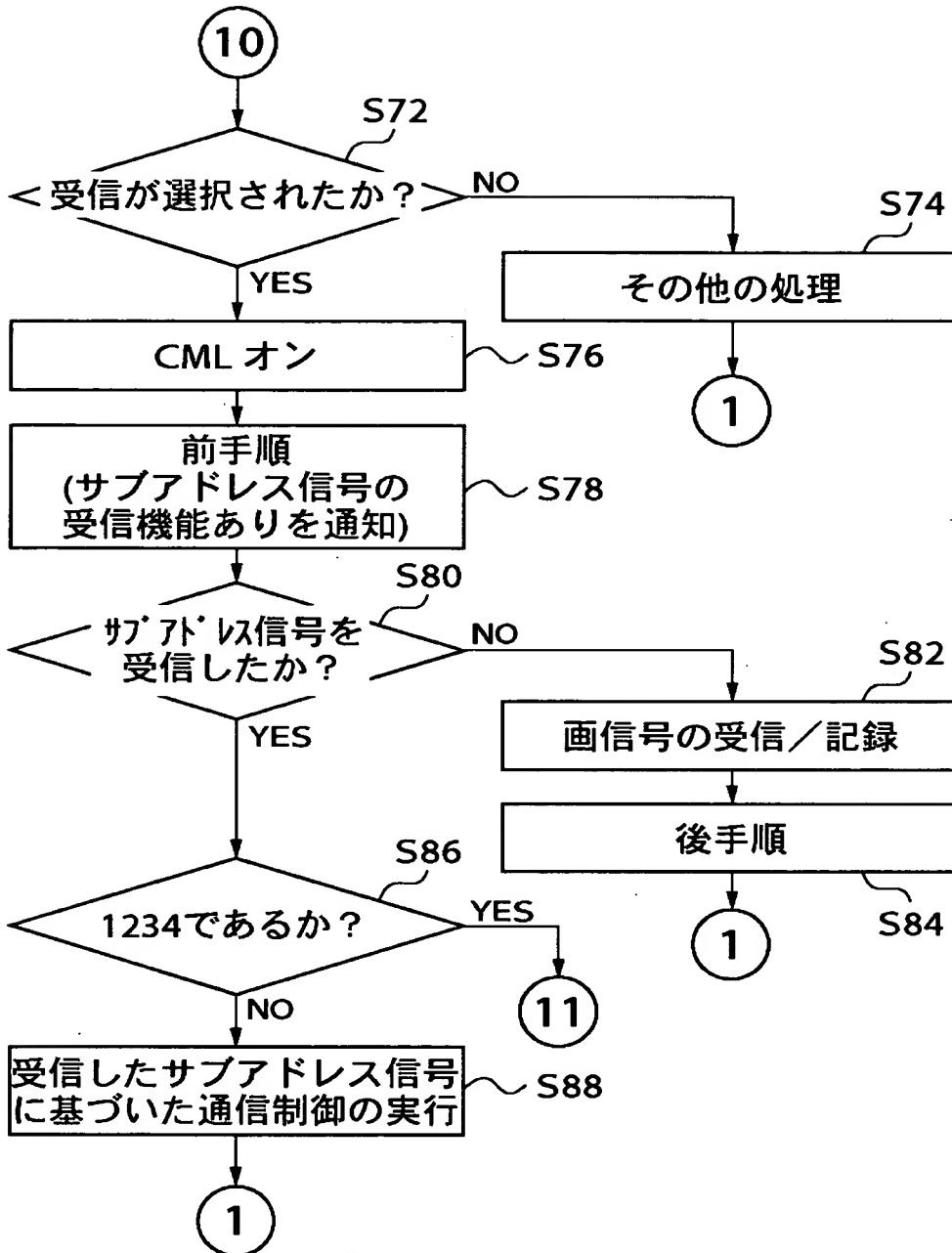
【図 5】



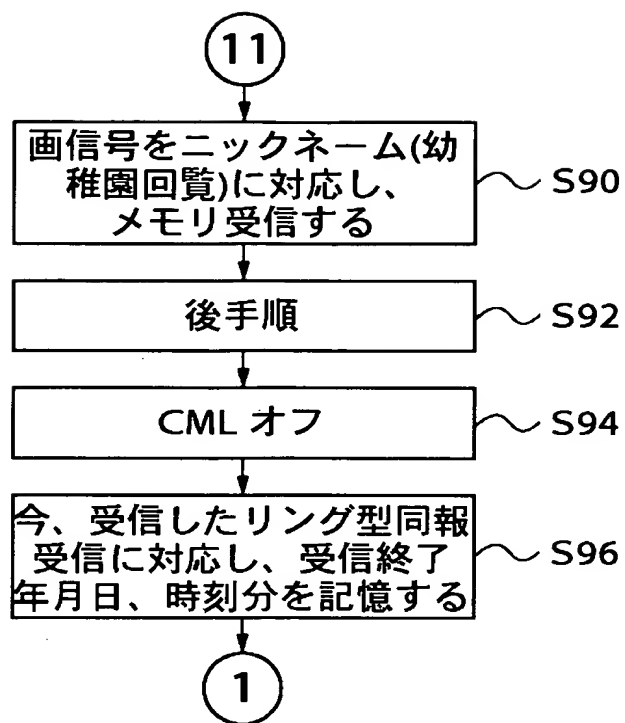
【図 6】



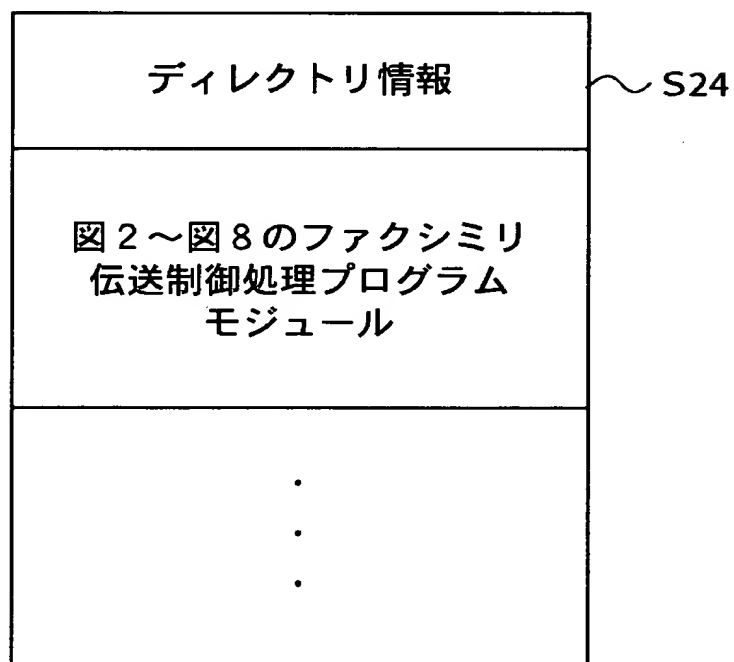
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 同報送信のグループのユーザが受信した情報を見ているか否かを確認できるとともに、グループのユーザが長期間留守であっても次の宛先に転送することができるファクシミリ装置を提供する。

【解決手段】 ファクシミリ装置では、受信したリング型同報受信情報の中で受信（メモリ受信）後、24時間経過した情報があるか否かを判別し（S52）、24時間経過した情報がある場合、例えば、幼稚園回覧の1つのリング型同報受信情報 α が、受信後24時間経過している場合（S54）、その情報 α の送信を行う（S62）。そして、転送したリング型同報受信情報をプリントし、かつ「リング型同報受信後、24時間経過したので、次宛先へこの情報を送信しました」という情報を1ページ目のプリントに付加する（S70）。

【選択図】 図5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名	キヤノン株式会社